



はたらく女性のフロアかながわ (WWFK)

〒221-0855 横浜市神奈川区三ツ沢西町8-25-203 本間重子気付
電話/FAX 045(323)0653 E-mail wwfk@hotmail.co.jp

第47回神奈川自治体学校・女性行政分科会報告

「ジェンダー統計は、 ジェンダー問題をあつかう統計」

11月4日、横浜市健康福祉センターで第47回自治体学校「女性行政分科会」が開催され、24人が参加しました。今回のテーマは「自治体と統計…ジェンダーの視点で統計をみる…」。住民と一緒に、ジェンダー統計にとりくんでいる伊藤陽一さん（法政大学名誉教授）のお話を聞きました。「そもそもジェンダー統計とはなにか」「統計データを集めるには」「住民目線でジェンダー統計を読み解き、プランにどのように反映させればよいのか」など日ごろ思っている疑問を考える機会となりました。

伊藤さんは冒頭、政府が「労働力調査」を改ざんし、雇用保険金の過少給付につなげるなど、統計をゆがめている現状に怒りを込めました。

「国連マニュアル」のジェンダー統計の定義は、「生活のすべての分野での女性と男性の状況における相違と不平等を十分に反映する統計」とされている。しかし、ジェンダー統計は個人の性別問題だけではない。国連の定義を超え、企業や機関の政策・制度等の数（例えば、保育や介護、転勤などサポート）もジェンダー問題の重要な対象であること。さらに、ジェンダー問題を認識（認定）し、解決策・計画を立案し、その実践計画を評価し、活用される統計であること。「ジェンダー統計は、ジェンダー問題をあつかう統計」であることが強調されました。

自治体でジェンダー統計を取り入れるには、それぞれの自治体の男女共同参画と統計や教育関係の各部署、さらに関心ある住民・住民団体とが連携していくことが望ましいこと。そのためには、「ジェンダー統計能力を高める必要がある」と言及しました。

神奈川県では、男女共同参画審議会の議事録がHPに公開され、委員の中からジェンダー統計の重要性が指摘されている。プラン作成時のパブコメへの県民の意見も、妥当な意見であれば注目される。県民が、男女共同参画計画や進捗評価、さらに審議会等の論議に深い関心を持ち、要請や要求



を持ち込むことが必要である、と話されました。お話の後、参加者で意見交換を行いました。・非正規女性の増大の中で、男女別賃金格差の統計は、実態に即したもののなのか。・国連のジェンダー統計の定義の中に生活のすべての分野での女性と男性の相違とあるが、どのような分野を考えればよいか。・ジェンダーは難しいととらえている人が多い。・統計資料など可視化されていることは理解できるが、通勤時間の長さ、M字カーブなど出され、是正をというが、なかなか改善されない。・県の統計業務が、本庁組織から出先の統計センターになり、職員も削減されている。などの意見や感想が出されました。

ちなみに、伊藤さんからもお話のあったジェンダー・ギャップ指数（GGI）ですが、2018年は110位だったのが、2019年にはなんと、日本は調査対象153カ国中121位で過去最低、G7の中でも最下位となっています。政治参加だけでなく、女性の非正規、低賃金、登用など依然として世界から遅れている実態です。もはや先進国とは言えません。

今回の学習を通じて、ジェンダー統計をもっと自分たちのものにしようということになりました。

そこで、2020年2月29日に伊藤陽一さんをおよびして、実践を中心の学習会を行います。

P6の案内をご覧ください。
（報告：小島八重子）

老人の手提げ袋に野菊かな
編みかけのマフラーの紺姉の色
佐知子

近況報告

本山 文子（会員）

私の近況は、在職中からの県行政を中心に消費者団体・相談員の方達と一緒に消費者運動に関わっています。また、元県職員仲間等で構成する消費者行政研究会で、県民要求実現をめざした団体・県民連絡会に参加、毎年対県交渉しています。

2018年4月、県の局再編で県民局にあった消費生活課が、くらし安全防災局に移管されました。県は、業務は変わらないと言います。しかし、特殊詐欺などの悪質商法では警察との連携が強化されるとしても、消費者基本法の理念である「消費者と事業者の情報の質・量・交渉力の格差を認め、消費者の8つの権利擁護のために国や地方公共団体がはたす責務」を、消費者目線から全庁的課題として問題提起できるか問われています。個人としては、団地の後援会ニュースの発行、月2回のマイクを持っての駅頭宣伝、最近は“横浜にカジノはいらない！住民投票で市民の意見を”がテーマです。消費者庁の地方交付金のメニューの一つに「ギャンブル等依存症対策に関わる取り組み」がありました。カジノでお金を貸すのはサラ金で問題になった多重債務への歯

止めがどうなるのかが心配です。

趣味では、前から習って見たかった水彩画と俳句です。水彩はハガキの大きさに野菜、果物、花など描いてきました。昨年5月にはじめて北信濃・千曲川周辺にスケッチ旅行し、今年で2回目です。雪を少し残す新緑の山々や田畑・城址後。対象の雄大さ、画紙の大きさと彩色に戸惑っています（台風で千曲川の氾濫の様子は、心が痛みます）。俳句の方は句ができなくて欠席しがちです。

今年は団地連合自治会幹事、地区運営委員を引き受け、花火や盆踊大会、運動会、夏季団地パトロールと、**老力**を振り絞って頑張っています。最後に、「労働運動支援ボランティア」には引続き参加していきたいと思っています。



本山さんの水彩画

映画が好き

「家族を想うとき」

池田 資子（会員）



引退を決めていたケン・ローチ監督が戻ってきた。労働者や社会的弱者に暖かい眼差しを向け続けてきた彼が、今回取り上げたのは、グローバル経済下での働き方と家族の問題。

マイホームを持って家族仲良く暮らしたいと願うことが、重く絶望的な日々を生み出してしまふのは、誰が悪いのか。何がいけないのか。

「働けば働いただけ報われる」と、ランチサイズの宅配ドライバーとして独立を決めたリッキー、パートで介護福祉の仕事をしている妻アビーとふたりの子ども。リッキーは1日14時間、

週6日、2年間頑張れば夢が叶うと必死に仕事をする。宅配の仕事は時間との闘い。配達時間は厳守、トイレにも行けない。妻の仕事も時間との闘い。細切れ仕事をつないで、1日何力所も廻る。夫の仕事に必要な車を買うために、アビーは自分の仕事用の車を手放した。バスを乗り継いで、介護先に向かう。家族がともに過ごす時間が無くなる。アビーは携帯電話で子どもに連絡をとり、少しでもコミュニケーションをとる努力をするが…息子は学校に行かなくなり、事件を引き起こす。娘は不安で眠れぬ日々を送る。ギスギスしてくる家族。ケンカも絶えない。リッキーは家族との時間をとりたいと休みを申し出るが、「替わりのドライバーを見つけてこい」と言われる。トラブルはすべて自己責任で、罰金が積み重なっていく。

家族のため働いているはずが、家族がバラバラになってしまう現実。似たような問題は日本でも起きている。宅配ドライバーの労働時間、コンビニ店主の働き方、介護、教育など、あらゆる職場で労働と暮らしのあり方が、問われている。

絶望的な日々には希望はあるのだろうか。映画の原題「Sorry We Missed You」に込められた想いが伝わればいい。EU離脱に揺れる英国、ケン・ローチには映画を撮り続けてほしい。

君嶋ちか子がゆく⑩

…神奈川県議会報告

県庁職員の死

★疲労困憊の末に

当時37歳の県庁職員（男性）が、2016年11月14日に死亡しました。県庁近くの公衆トイレで発見されました。

この方は、2013年から知事室に所属。知事発案の「戦略的広報」やイベントの企画運営等の「特命事項」を担当。すべてが知事直結案件で、知事の気分にも左右されながら、上司からの厳しい叱責が続いたそうです。

彼は、知事室における精神的・肉体的疲労を抱えたまま、2016年財政課に異動。財政課で保健福祉局を担当しました。未病関連を中心とした知事肝いりの政策も多く、精神的負荷が多かったといわれます。

異動後まもない7月には、心身に明らかな異常が認められるようになり、他の人と話もせず、笑わなくなりました。「死にたい」と周囲に漏らすようにもなり、11月14日を迎えます。

ちなみに、亡くなる前の時間外労働は、7月201時間13分、8月185時間51分、9月135時間37分です。



楽しかった！勉強になった！

村田 泰子(会員)

11月26日、港北公会堂で第14回「輝け高齢期かながわのつどいin港北」が開催されました。当日は雨が降っていて参加者が少ないかなと心配しましたが、県内から500人の方が集まりました。

「医療・福祉が切り捨てられていく～憲法が生きる国への処方箋～」と題して、本田宏さん（NPO法人医療制度研究会）の記念講演は大変面白く良かった。あっという間の1時間で説得力があり、とても勉強になった。歴史の裏側をわかりやすく話してもらい素晴らしい講演だった。国や政治家に騙されてはいけないと思った。など多くの感想が寄せられました。

文化行事についてもゴローちゃんの腹話術はとてもよく、久しぶりにゴローちゃんに会えてうれしかった。松平さんのトランペットやオカリナ演奏、ハーモニカなどサークルの出し物すべてが大変好評でした。

基調報告では、医療や看護・年金をめぐる情勢と高齢期運動の今後の課題などが提起され、「安

★「訃報のお知らせ」もなかった

今回遺族が損害賠償請求訴訟を提起するまで、知事・県当局は彼の死を伏せていました。「訃報のお知らせ」もなかったのはショックだったと、裁判のニュースで初めて彼の死を知ったある職員が漏らしていました。

私もある人から、当時この件を調べてほしいと相談を受けていました。しかしながら当局は遺族の意向を根拠とし、一切語りませんでした。

長時間労働及びパワハラによって職員の命を奪ったことも、そのことを県庁内外で隠していたことも、本当に許せません。

今回、遺族の提訴がなければ、彼の死はこのまま伏せておかれたのかもしれない。

★県政のひずみの中で

知事の未病などを掲げる政策が、県民要求とは無関係に、自らの興味の赴くまま、予算と人員を拡大させてきたことを、私は度々批判してきました。他にも職員には踊りやパフォーマンスまで強いていました。知事室における彼への重圧も理解できます。

忙しい職員に、追い打ちをかけるようにあらぬ忙しさを強いる知事と隠ぺいを図ろうとした当局に、怒りを覚えます。

県政のひずみの中で、失われた命。県政を正したいという思いは、いよいよ切実です。

倍9条改憲NO!」「全世代型社会保障改革NO!」の声を広げ、健康に気をつけて元気に活動が続けること、世代間の協同を広げる運動の重要性が強調され、若者世代と運動目標を共有して、高齢者の知恵と力を発揮し活動する行動目標が出されました。今回のつどいには港北区の中村秀夫高齢障害支援課課長が区長代理として挨拶しました。

今回のつどいでは全世代型社会保障の改悪に反対していく必要性が理解できました。私は年金者組合の運動を中心に活動していますが、医療、介護の運動と結合させ、地域の民主団体と一緒にとりわけ「75歳以上の医療費負担の原則2割化反対」の運動を進めていきたいと思います。



2019年はたらく女性の 神奈川県集會に参加して 伍 淑子(会員)

キム・ジヨンにつながる女性たちの苦悩と 生きにくさの根源を学ぶ

12月1日、建設プラザかながわで「2019年はたらく女性の神奈川県集會が開かれました。今年は趣向をこらして若い人の参加をめざした企画がされていました。

はじめにNHKで放映された「目撃！にっぽん『キム・ジヨン』と女性たち～韓国小説からの問いかけ～」を上映。韓国でベストセラーになった『82年生まれ、キム・ジヨン』の主人公ジヨンの人生で出会う困難、差別を日本の女性に置き換えたドキュメンタリー。上映後、ワールドカフェ形式での小グループに分かれて討論をしました。年齢も仕事も国籍も異なる参加者たちが日頃感じているジヨン氏が感じた生きにくさを紙に書き出し、結論を出すのではなく、個々の考えを出し合い、意見を交換するという、私にとっては初めての方式でした。どうなるか気がかりでしたが、参加した人たちは結構楽しんで交流していました。今年の特徴は、参加者の多様なことでした。とりわけ、労働相談にこられた外国籍の若い女性たちの参加がいかに横浜らしく目立ちました。グループ毎の発表の後の交流で日本で働く外国人女性労働者の労働実態のひどさに怒りを感じた中で、交流後の記念講演で、こうしたジェンダー差別が新自由主義的資本主義の真の姿であることを確認することができました。

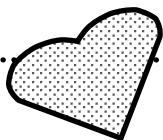
記念講演は「自分らしくあるために～ネオリベ時代のジェンダー差別をどう乗り越えるか～」と題して愛知淑徳大学名誉教授の石田好江さん。石田さんは、私たちにはお馴染みの女性労働問題研究会のメンバーです。キム・ジヨン世代の働く女性たちが抱える、それ以前の女性たちとは異なる苦悩・生きにくさはどこから生まれたのか、それ



をどう乗り越えられるかを考える講演内容でした。はじめに、ジェンダーギャップ指数があまり変わらない韓国と日本の働く女性たちを比較。雇用労働者にパートの占める割合が高い日本と低い韓国、両国ともに、初職の正社員を辞めたら質の高い再就職先はない。賃金・所得の男女格差はワースト1位（日本）と2位（韓国）、M字型の年齢別労働力率も同じ。

そのうえで、このような状況をもたらしたものは何か。それは、資本主義が新自由主義的資本主義（ネオリベ資本主義）に変容したことによると指摘。それらは、資本の活動を縛る規制を緩和することの基に、生命・労働力の再生産は自己責任と労働の商品化へと転換した結果、自己決定は人とのつながりを弱め孤立化を伴い、自己肯定感を低下させ、諦めに向かう若い世代を生み出している。その背景に市場論理の拡大=民営化、規制緩和、徹底した競争主義が経済格差の拡大を伴って行われたこと、自己決定を保障する公の役割が変質したこと、社会的連帯が喪失したこと、新保守主義の登場という新自由主義の特徴が20世紀の福祉国家型資本主義とは異なる働き方を生み出したと指摘。それではネオリベにジェンダー平等が取り込まれたことに対して何が求められるかということでは、経済的な不平等への闘いを強める、社会的連帯を取り戻す、生命・労働力の再生産の社会化が求められていると結びました。

学習がまだまだの私は、講演を十分に理解できず、女性労働と新自由主義的資本主義の関連を学び直し、対抗軸を模索したいと痛感することになった1日でした。



完全勝利！！ 箱根登山ハイヤー不当労働行為事件



箱根登山タクシーの自交総連神奈川地方労働組合・那賀支部長が、残業や公休出勤時の割増賃金不払いを会社に支払いを求めたところ、2018年4月に会社は報復として箱根エリアから小田原エリアへの一方的な異動を強行。住宅ローンの返済など生活維持のため、「夜勤選任乗務員」を選択せざるを得ませんでした。ハラスメントやセクハラなど不当な扱いを受け、神奈川労働委員会に不

当労働行為の申し立てをしていました。11月12日、会社は「遺憾の意」を表明。11月中に元の職場・箱根エリアへの無条件復帰を勝ち取りました。

この間、WWFKとして、「要請書」の署名・提出に協力するなど支援を行ってきました。

高麗博物館見学とWWFK望年会

佐久間由美子(会員)

高麗博物館展示企画

韓国ドラマの・映画の中の「日本」

— 渡来・交流そして軌轢 —

12月1日、新宿区新大久保の高麗博物館を見学してきました。日韓関係が厳しさを増す中、少しでも日韓交流の一助に、そしておいしい韓国料理を食べて元気に寒さを乗り切ろうという下心も兼ねて、はるばる新宿の街にやってきました。

博物館では、企画展示に携わった紺野君子さんが案内してくれました。

企画展は、古代から近代まで、切っても切れない関係の日本と韓国、それぞれの歴史を背景にしたドラマ・映画が作られる時、日本と日本人がどのように描かれているのか、という視点で展示されています。

全部で26本のドラマ・映画について展示されていましたが、残念なことに私がみたのは「ホジュン」1本だけでした。博物館の解説によれば「民主化運動後、映画も民主化を勝ち取った、主人公も王・英雄だけでなく一般庶民に変化し、社会性、作家主義的な作品が多数生まれた」そして「日本映画の衰退とは対照的」と。確かに私の見



説明する紺野君子さん(左から2人目)

た数少ない韓国映画は、社会性が際立っていたり、ドキュメンタリーとして素晴らしかったりと、日本映画には飽き足らなく思っていました。明治以降の近現代史は学校で学んでいないこともあってイマイチなので、映画で少しでも知ることができれば一石二鳥。機会があれば、特に植民地時代のもなどをもっと見たいと思います。

ランチは、渡辺泰子さんの案内で、新大久保駅近くの「梁の家」へ。予約の私たちは、行列の人たちを抜いて予約席へ。それぞれ好みのメニューと飲み物を注文して韓国の味を堪能し、歓談し、望年会も兼ねた楽しい1日となりました。

なお高麗博物館の現在の展示は、「江戸時代の朝鮮通信使」です。

JAL 争議の早期解決を！

宝地戸百合子

(JAL 不当解雇撤回争議団事務局次長)

「10回目の大晦日を迎えさせない」をスローガンに、争議団と当該組合は支援者とともにJALに争議の年内解決を迫る取り組みを強化しています。

空港や駅頭宣伝の他、旅行業界や国会議員、オリパラ組織委員会への要請、連日の本社前アピール行動、成田支社前での職場向けピラ等、内外での取り組みを行っています。また、8月には全国で33番目の支援組織「かながわ連絡会」が結成され、解決を迫る大きな力になりました。

9年前に解雇予告通知が送られた12月9日には、JAL本社大包围行動が行われました。650名が本社前を埋め尽くし、JAL経営の不誠実極まりない対応への抗議と、解決まで闘う決意を会社にぶつけました。

2018年5月にJAL経営が解決のための交渉を始めると公表してから1年7か月が経過しました。この間、特別協議が13回行われましたが、解決に繋がる具体策は何ら示されていません。12月20

日に開かれた13回目の協議で初めて人財本部長が出席したものの、再三要請していた社長の出席はなく、原告団の出席も認めませんでした。解決のための具体策の提示もなく、今年末闘争の団交で「結果に繋がる方法を考えたい」と述べながら、未だに無責任な対応に終始しています。

JALは来年のオリパラの公式スポンサーです。国際基準の遵守、差別や人権侵害のない社会を目指すILOとオリパラ組織委員会とのパートナーシップ協定の理念に照らし、解雇争議を解決すべきです。更なる運動で解決を迫っていきます。



12月17日の横浜西口高島屋前での宣伝行動

はたらく女性のフロアかながわ公開学習会・・・・・・・・・・

男女平等の社会をすすめるには。 —ジェンダーの視点で統計をつくる—

とき：2020年 **2月29日(土)**

13:30~16:00

ところ：年金者組合神奈川県本部会議室
(不二ビル2階 地図参照)

資料代：**300円(資料代等)**

【プログラム】
☆お話しとワークショップ
「つくってみよう、
ジェンダー統計」

講師：伊藤陽一さん
(法政大学名誉教授)

どなたでも参加できます。
おまちしています！

女性の貧困を解決するためには、どのようなデータを活用したらよいかしら？

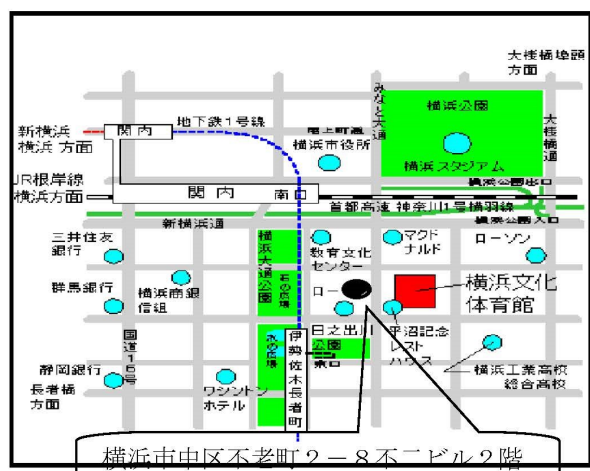
自治体の男女共同参画プランに提言したいのだけれども、説得力のあるジェンダー統計を作りたいけど、どのようにしたらよいの。



- ▼世界から大きく遅れている日本の男女共同参画。あらゆる分野での男女共同参画を解決するには、遅れている原因や問題を洗い出す必要があります。
- ▼それには、白書などを引用するのではなく、現統計報告書に当たり、ジェンダー目線で統計を作成することが重要です。
- ▼実際に統計をつくることで、ジェンダー統計の意義をつかんでみませんか。

【伊藤陽一さんプロフィール】

1939年1月札幌生まれ。北海学園大学→法政大学で「統計学」担当教員。1990年前後の国際的「ジェンダー統計」の興隆に立ち会う。北京女性会議NGOフォーラムで報告、以後、幾つかの内外のジェンダー統計活動に参加。岡山市・大田区のリーフレットづくりの助言者。『経済』誌の2019年5・6月号に「統計不正問題」寄稿。



問い合わせ先・主催 はたらく女性のフロアかながわ (WWFK)

電話：小島 080-1148-7334 FAX：0467-75-3023

メール：wwfk@hotmail.co.jp HP：wwfk.jimdo.com



働く女性のための
相談・学習
交流